

# 生産ロスを大きく減らす酪農技術！

## ～分娩前後の飼料給与見直しで周産期疾病が減少～

- ◆活動年次：平成25年度
- ◆対象：JA門別酪農生産者会 37戸

### 1 課題の背景

酪農における周産期疾病は大きな生産ロスであり、最優先で取り組むべき課題である。周産期疾病対策は技術的に整理されてはいるが、現場では正しく実践されておらず、発生が散見される。そこでモデル農家を選定し、そこでの取組と成果を周知することで地域全体の取組につなげていく。

モデル農家では低カルシウム血症を原因とする周産期疾病が発生し、特に起立不能での廃用や漏乳・乳房炎によるロスが多かった。その原因は分娩前後の飼養管理及び栄養管理にあり、管理の見直しにより低カルシウム血症を予防し、周産期疾病の減少をめざす。

### 2 活動の経過

(1)モデル農家の飼料給与メニュー及び飼養管理の見直し

低カルシウム血症の予防のため、乾乳期の飼料設計を行った。飼料中のCa/P比を基準値に合わせるように設計し、設計どおりの正確な給与を実践した。

①泌乳期・乾乳前期に飼料用タンカルを給与し、骨へのカルシウム蓄積を促す。



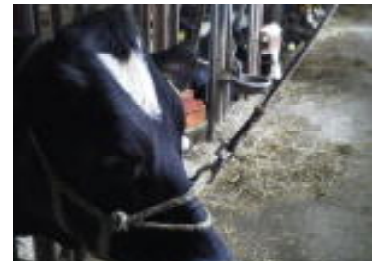
飼料用タンカル

②乾乳後期に給与する配合飼料を乳配から周産期対応の低カルシウム飼料へ変更し、低カルシウム血症の予防を図る。



周産期対応配合飼料

③乾乳後期の盗食防止策により、隣にいる泌乳牛が食べる高カルシウム飼料（乳配、飼料用タンカル）の盗食を防止する。



ロープによる盗食防止対策

④良質のロールサイレージをロールカッターで裁断し、採食量を向上させる。

改善前給与メニュー

(kg)

(%)

飼料名	乾乳前期		乾乳後期			乾乳前期		乾乳後期	
	給与量	乾物量	給与量	乾物量		栄養濃度	基準値	栄養濃度	基準値
1番草ロールサイレージ	12.0	8.9	6.0	4.4	DM/体重	2.0	2.0	1.6	1.6
コーンサイレージ	8.0	2.2	② 8.0	2.2	TDN	63.0	60~63	69.3	65~68
乳配19	2.0	1.7	4.0	3.5	CP	11.5	12~13	14.0	13.5~15
周産期対応配合19					NFC	18.7	-	29.0	25~30
飼料用タンカル					Ca/P比	1.50	1.8~	1.36	0.7~1.0

改善後給与メニュー

(kg)

(%)

飼料名	乾乳前期		乾乳後期			乾乳前期		乾乳後期	
	給与量	乾物量	給与量	乾物量		栄養濃度	基準値	栄養濃度	基準値
1番草ロールサイレージ	12.0	8.9	6.0	4.4	DM/体重	2.0	2.0	1.6	1.6
コーンサイレージ	8.0	2.2	8.0	2.2	TDN	62.7	60~63	69.6	65~68
乳配19	2.0	1.7	↓ 4.0		CP	11.5	12~13	14.0	13.5~15
周産期対応配合19	①		4.0	3.5	NFC	18.7	-	29.3	25~35
飼料用タンカル	0.1	0.1			Ca/P比	2.20	1.8~	0.83	0.7~1.0

## (2) 管内酪農家への周知活動

### ① FAX情報による周知

カルシウム不足解消に向けた取組としてFAX情報を管内の酪農家へ送付した。FAX情報は飼料用タンカルを知らない酪農家が多かったことと、土や尿を舐める牛が散見され、カルシウム不足が推測されたことから情報提供を行った。

### ② 講習会による周知

モデル農家での取組内容と結果を門別酪農生産者会主催の総会や講習会で説明した。



講習会の開催

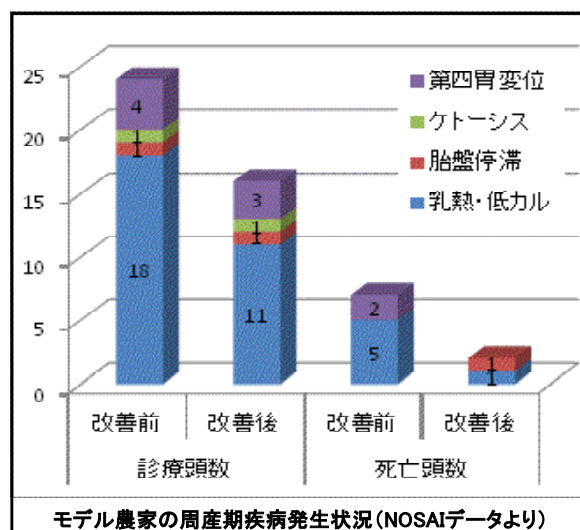


## 3 活動の成果

- (1) モデル農家では周産期疾病が減少した。
- (2) FAX送付後、複数の農家から問い合わせがあった。また、飼料用タンカルは単価が安いこともあり、飼料用タンカルの販売量が増加した。
- (3) 他の農家からの問い合わせが増え、新たに取り組みを始める農家が出てきた。

### ～モデル農家の声～

- ・取組自体は今までの管理とほとんど変わらないため、苦ではない。
- ・タンカルの食いが悪い時はコーンサイレージに混ぜ込んで食べさせている。
- ・起立不能、漏乳は少なくなった。
- ・飼料用タンカルに慣れさせるため、育成牛にも給与するようにしている。
- ・改善後も乳熱での診療を受けているが、ほとんどが予防的な処置である。
- ・牛が死なないのが非常に大きい。



## 4 今後の課題

- (1) 周産期疾病対策は規模拡大や個体乳量増加に必要な不可欠な技術であり、農家個々が理解を深め、正しく実践することが必要である。
- (2) 乾乳牛は専用施設またはパドックで管理するのが理想であり、施設整備等が必要である。
- (3) 他の農家の取組を支援する。